

# 収穫まであと少し！ 8月～9月の カンキツ病害対策のポイント！



佐賀県果樹試験場 病害虫研究担当 特別研究員 井手洋一



写真1 カンキツ黒点病

## 黒点病

今回は、この時期の管理作業で重要な八～九月の病害防除のポイントを、黒点病、褐色腐敗病、かいよう病対策を中心にご紹介したいと思います。

本年度の肥培管理も後半戦に入り、いよいよ来月あたりから収穫作業が始まります。ここまで手塩にかけて育ててきた果実を、最高の出来で消費者に届けるためにも、ここで改めて気を引き締めて管理作業に当たらなければいけません。

今回は、この時期の管理作業で重要な八～九月の病害防除のポイントを、黒点病、褐色腐敗病の同時防除を兼ねる場合はジマンダイセン水安に薬剤散布を行われてきたことと、指標を目安に薬剤散布を続けてください。雨の降り方は地域によって大きく異なりますので、マシン油乳剤の容器を使つた簡易雨量計（写真2）を庭先に置いておくと便利です。

使用する薬剤についてはジマンダイセン水和剤六〇〇倍（温州ミカンでは収穫三〇日前・四回まで使用可、その他のカンキツ類では収穫九〇日前・四回まで使用可、ベンコゼブ水和剤六〇〇倍（使用基準はジマンダイセン水和剤と同じ）、エムダイフアーウ和剤六〇〇倍（カンキツ全般で収穫六〇日前・二回まで使用可）がありますが、褐色腐敗病の同時防除を兼ねる場合はジマンダイセン水和剤を四〇〇倍で散布してください。

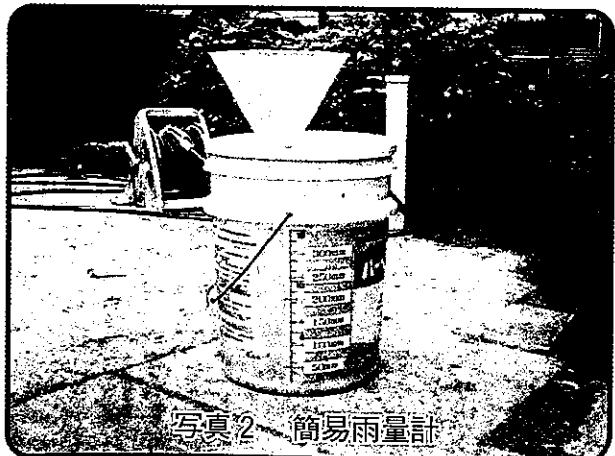


写真2 簡易雨量計



写真3 黒点病菌の飛散防止対策  
(切り株に肥料袋)

和剤六〇〇倍（使用基準はジマンダイセン水和剤と同じ）、エムダイフアーウ和剤六〇〇倍（カンキツ全般で収穫六〇日前・二回まで使用可）がありますが、褐色腐敗病の同時防除を兼ねる場合はジマンダイセン水和剤を四〇〇倍で散布してください。枯れ枝（特に太いものは要注意）が樹の内部に残っているようであれば、必ず取り除いてください。また、樹の内部の枯れ枝だけでなく、間伐樹の切り株なども伝染源となります。伐根して園外で処分することが基本ですが、もしできない場合は、病原菌の胞子が風で飛散しないように肥料袋等をかぶせてください（写真3）。

褐色腐敗病



#### 写真4 ハラメキ褐色腐敗病



## 写真5 カンキツかいよう病

褐色腐敗病（写真四）は、土壤中に潜む *Phytophthora* 属菌が原因となる病害です。雨が降った際に土壤中の菌が跳ね上がって果実に付着します。果実の表面が二時間も濡れていれば感染し発病します。このため、以下の点に注意してください。

**褐色腐敗病** (写真四) は、土壤中に潜む Phytophthora 属菌が原因となる病害です。雨が降った際に土壤中の菌が跳ね上がりつて果実に付着します。果実の表面が二時間も濡れていれば感染し発病します。このため、以下の点に注意してください。

①褐色腐敗病が問題となる園では、前述のとおり、黒点病の同時防除を兼ねてジマンダイセン水和剤を四〇〇倍で散布します。ただし、温州ミカンでは収穫三〇日前まで、その他カシキツ類では収穫九〇日前までしか使用できませんので注意してください。

褐色腐敗病（写真四）は、土壤中に潜む *Phytophthora* 属菌が原因となる病害です。雨が降った際に土壤中の菌が跳ね上がって果実に付着します。果実の表面が二時間も濡れていれば感染し発病します。このため、以下の点に注意してください。

①褐色腐敗病が問題となる園では、前述のとおり、黒点病の同時防除を兼ねてジマンダイセン水和剤を四〇〇倍で散布します。ただし、温州ミカンでは収穫三〇日前まで、その他カンキツ類では収穫九〇日前までしか使用できませんので注意してく

ださい。

②ジマンダイセン水和剤が使用できない時期になつたら、クレフノン一〇〇倍加用リドミル銅水和剤七五〇倍（温州ミカンのみで収穫一四日前まで可、その他のかんきつ類では使用できません）、アリエッティ水和剤四〇〇倍（かんきつ全般で、収穫前日まで使用可）で対応してください。なお、アリエッティ水和剤を着色初期の高温時に散布すると日焼けの発生を助長しますので、使用にあたつては十分注意してください。

③土壤の跳ね上がりを防ぐため、マルチを行つてください。また、土壤からの距離を保つため、枝つりを行

だ  
さ  
く

つてください。

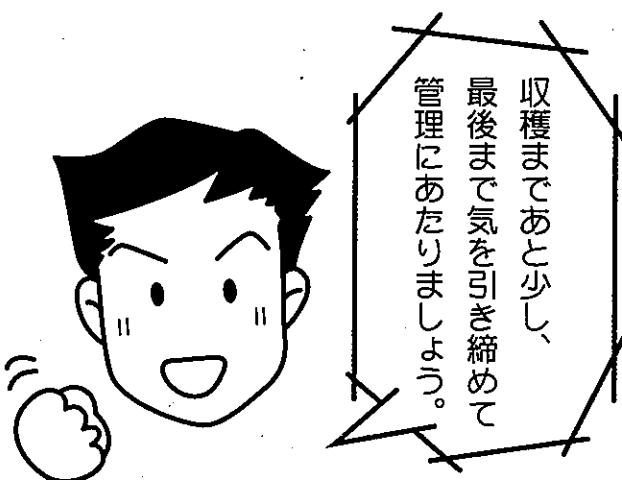
かいよう病

かいよう病に効果がある薬剤はあらかじめ予防散布しておくことで高い効果を發揮します。台風が通過してからの防除では正直言つて手遅れです。黒点病と同じように、薬剤散布後の累積降雨量と経過日数を考

結実栽培を行つた樹では、垂れ下がつたような枝ぶりとなります。このため、薬剤散布を樹の外側のみですませると、樹の内部まで薬液が到達しない場合があります。状況に応じてノズルの先端を樹の内部までつゝ

市母、  
慮して薬剤散布を行つてください。  
この時期は薬害が出にくいコサイド  
DF-1、〇〇〇倍（クレフノン二〇  
〇倍加用）などの無機銅剤を使用し  
ます。薬剤散布一〇～二五日、累積  
降雨量一五〇～一〇〇mmを日安に再  
散布を行つてください。

また、三月号でも述べたように、  
青島や大津のように無せん定や弱せ



さらに、スピードスプレヤーで散布する場合も、垂れ下がった枝が邪魔して樹の内部まで薬液が十分に到達せず、防除効果が十分にあがらない場合があります。このような園では手散布で補完散布を行ってください。

いよいよ収穫の時期がせまつてきました。今年の佐賀ミカンを最高の品物に仕上げて、消費地に送り出してやりましょう。